

慶応二年六月二十一日より慶応二年六月廿五日まで

以降は

P8310600JPGと同じ、即ち右期間の日記分がない。

P8310602 right

小柴（喜）、諏訪（飛）来る辞して不面、内山、桑野へ訪暑品（霜糖二斤入壱箱づつ）遣す、出殿、番町

礪川へ尋暑名代として太郎を遣し霜糖一折づつ遣す、坂町へも同断使して同品遣す旨、藤山稽古に来る、

十三日 子 晴

調桁宅調、五郎暑見舞に来り泡盛酒一壺瓢を贈らる、藤児婚儀支度料の内五十拾円を渡し遣わす、柳亭稽古に来り訪暑の意、落雁一折持参、源一親の病により四ケ日の暇を乞う聞届遣す、

十四日 丑 晴

番町隠居来り花束虫駕籠など小品持参、山王祭礼に付、歙藤の迎いを□旨也

P8310602 left

面す、出殿、歙藤両児とも番町へ迎へ連れて泊宿に行く、桃核菓子等持参、山口（良）

暑見舞として小品持参、酬小品遣せし旨、寺山□為児同断小品持参、酬品遣す、長蔵来る

合口可□のもの彫代四円内渡し遣す

十五日 寅 雨

伊藤（幸）より訪暑として銘酒一小壘托し越す、松盛齋方へ長崎苺（たばこ）三を為持遣し、

借用の花瓶二を返す

また同断二を□□、出殿、旧侍作之助花束持来りし旨、三つ井より暑見舞霜糖一管を

差贈りの旨、町田（耕）より志願書、暑見舞状とも届く

十六日 卯 風雨夕前止

須崎（常）来る、朝比奈（甲）へ行の帰途の旨、出殿、（駕籠を用いる）保三来る

（内は細字双行二行に小さい文字で二行書きなどの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。